

三原村民俗・言語調査プロジェクトの報告

— 民俗・言語地図の試み —

橋尾直和・中平有咲・白間友佳子・唐津由実・速川礼羅・吉廣真紀・下村亮太

1. はじめに

三原村民俗・言語調査は、三原村文化財保護委員会が、「失われる前に集めよう」と1980年から数年間にわたって古民具を収集し、明治期から昭和期の機織り機や糸車、石臼、食器などを村の中央公民館で保存しており、これらを観光資源に活用しようと、文化学部で調査・整理・保存の依頼が寄せられたのを機に、2009年7月からスタートした連携事業である。オブザーバー的な立場であった県立歴史民俗資料館とも連携強化と協定締結を検討し、2010年12月4日、文化学部と三原村と県立歴史民俗資料館が三者協定の調印式を三原村役場の村長室で行った。

この調印式に先立って、文化学部の学生約20人と橋尾、県立歴史民俗資料館の梅野光興主任学芸員らが2010年11月20日に三原村下切で民具調査を行った^①。また、地元のグループ「老止（おとめ）クラブ」のメンバーの指導のもと、日よけに使う「ヒニノ（日蓑）」や薬製の「ホッゴ（ふご）」などを実際に作製した。そして、2013年9月21日（土）から23日（月）までの3日間、本学のプロジェクト「立志社中」の活動と文化学部の授業「フィールドワークⅡ」（橋尾担当）の一環として、「三原村民俗・言語調査プロジェクト」を実施することとなった^②。チーム名は、from ZERO（フロムゼロ）で、メンバーは、4回生の中平有咲、白間友佳子、3回生の唐津由実、速川礼羅、吉廣真紀、2回生の下村亮太の計6名である。全集落13地点を、3つのグループに分かれて、文化財保護委員の方々にサポートしていただきながら「民具の方言呼称」を調査した。85歳前後（はえぬき）の高年層のインフォーマントの方々に、調査票を用いて直接話を伺う「面接調査法」による聞き取り調査をした。その際、ノートにメモをとるだけでなくICレコーダーを用いて音声記録も行った。



三原村の位置図

調査地点の三原村は、高知県の西南部（東経132° 50' 59"、北緯32° 54' 10"）に位置し、標高120mの高原地帯に位置する典型的な山村である。気候は温暖多雨で、夏は台風の進路にあたるため被害を受けることが多々ある。周囲を450～850mの山脈に囲まれ、隣接する中村、宿毛、土佐清水の3市とは独立した立地条件にある。村のほとんどは山林で、集落及び耕地は2級河川下ノ加江川とその支流に沿って散在している。古くは「三原郷」と呼ばれ、明治22年の町村制施行により「三原村」となり、

現在は13集落で構成されている。村の特産品には、土佐すずり（硯）・みはら茶（お茶）・三原米（お米）・やぶ隠し（地酒）などがある。2013年11月30日現在の人口は、1,708人（男性：823人・女性：885人）、世帯数は788戸である。

調査票には、民具・習俗がどのようなものかを問う質問文を用意し、プレ調査によって得られた予想語形を調査者用のものには書き込んでおき、すぐに回答が得られない場合に限って、予想語形による確認調査を行った。調査項目は、次のとおりである（カッコ内は予想語形。また、調査に当たっては、民具の写真を用いて話者に説明を施した）。

<衣>1. 藁（時に竹皮）で編んだ日常履いていた履物を何と言いますか。（ゾーリ）、2. 足の前半分だけの草履を何と言いますか。（アシナカ）、3. 外仕事の時、雨や日射しを防ぐために着用するスゲやシュロで作られたものを何と言いますか。（ミノ・ニノ）<食>4. 水道が無かった時、水をためておく陶製の大型の容器を何と言いますか。（ハンド）、5. 焼酎、醤油などを貯蔵・運搬するための容器で、小さい口が上部にあり、持ち手があるのが特徴の道具を何と言いますか。（ショーチュートッポ・ウンスケ）、6. 餅を搗く道具を何と言いますか。（キネ・キノ）、7. 搗いた餅を並べる木製の容器を何と言いますか。（モロブタ・モロイタ）、8. 寿司飯をまぜる時などに使う浅い桶を何と言いますか。（ハンボ）、9. 炊き上がったご飯を釜から移し、食膳へと運ぶ道具を何と言いますか。（オヒトッ・オハチ）、10. 夏場に、炊いたご飯を入れて軒下などに吊るし、風通しをよくして保存する竹製の道具を何と言いますか。（トッリゾーケ・メシゾーケ）、11. 陶器の総称を何と言いますか。（カラトッ）、12. カラトッボンとはどのようなものですか。13. 一人一人がお酒を飲むときに使う小さな食器を何と言いますか。（サカドッキ）、14. 皿鉢などをのせて座敷に置く台を何と言いますか。（モノスエ）、15. ハンダイとはどのようなものですか。<住>16. 屋内の床や土間を四角に切って、そこで火を焚き、煮炊きや暖房に使用する場所を何と言いますか。（イロリ・ユルリ）、17. そこに天上からぶら下がっている鍋などを吊す道具を何と言いますか。（ジザイ・ジサイカッギ）、18. そこに火を絶やさないように置いている丸太を何と言いますか。（クンゼ）（四隅に置いているものかを確認）、19. 土や石で固められ、鍋や釜をのせて下から火を焚いて煮炊きに使用する場所を何と言いますか。（クッド・オクッド）、20. 囲炉裏などに置いて餅や魚などを焼くために使う四本足の鉄の台を何と言いますか。（テッキュー）、21. 土製の火入れに炭を入れ、その上から布団をかけて寝床に入れたり手足を温める道具を何と言いますか。（アンカ）<農>22. 牛馬に引かせて田畑を荒起こしする農具を何と言いますか。（ウシグワ・スキ）、23. 牛馬に引かせて田畑の土を細かく砕く農具を何と言いますか。（ウマグワ・カナコ）、24. 土砂や泥などをかき寄せる道具を何と言いますか。（ジョレン）、25. 田の畦塗りなどに用いる平たい刃の鍬のことを何と言いますか。（ヒラグワ）、26. 先が3つに分かれている鍬を何と言いますか。（ミトッゴ・ミトマタグワ）、27. 先が4つに分かれている鍬を何と言いますか。（ヨトウngo・ヨトウマタングワ）、28. 「ドッサリ」とはどのような鍬ですか。29. 麦の土掛けに用いる農具を何と言いますか。（ムギトッチカケ・ドロカケ）、30. 稲や麦の穂を脱穀する際に用いる、歯がたくさんある農具を何と言いますか。（カナバシ）31. 柄を持って打撃部を回転させ、叩きつけることで、粟や豆や穀類などを脱粒させる道具を何と言いますか。（カラサオ・カラサワ・

カラサー)、32. 筵をひいてその上で叩いて粟や豆や穀類などを脱粒させる道具を何と言いますか。(テッドッチ)、33. 粳と藁くず、米と粳殻など選別する道具で、選別するものを中に入れ、揺すりながら選り分ける道具を何と言いますか。(トーシ・トッドラドーシ・ソゾリ)、34. 粳殻を取り除き玄米にするために用いるもので、竹籠などに土を詰めて作ることが多い道具を何と言いますか。(トース・モミスリ)、35. 米と粳を分離させるための薄い板状の道具を何と言いますか。(ユリ) 36. 家の土間などに置いてある臼で、人が杵を踏んで米や麦を精白するものを何と言いますか。(グダイガラ・フミウス)、37. 竹製の網代編の円い道具で、作物を日に干したりするのに使う道具のことを何と言いますか。(サトマ・サトマゾーケ・ソーケ)、38. 竹製の籠で底の目が大きく、芋を運び洗うと泥が落ちるようにできている道具を何と言いますか。(ユギカッゴ)、39. 種まきや収穫や草引きの際に用いる掘り棒を何と言いますか。(ホグシ) <山>40. 木を切るために用いる斧を何と言いますか。(チョーナ) 41. 倒した材木を角材にするため、側面を削る斧の一種を何と言いますか。(ハトリ)、42. 先端に突起がついていて、枝を落とす時などに使うナタの一種を何と言いますか。(エッガマ) <漁>43. 川や沼などの水中に設置し、魚やカニやエビ、ウナギなどの習性を利用して中に入ったら出てこられないようにして捕獲する道具を何と言いますか。(ウエ・ワリコ)、44. 柄の先に針矢がついており、ゴムの反動で柄を飛ばして魚を突き刺す道具を何と言いますか。(チャン) <楮・三桎>45. 楮を蒸すための大きな桶を何と言いますか。(コシキ)、<畜>46. 家畜の餌などのために藁や干し草などを切るための道具のことを何と言いますか。(ハメキリ・スサキリ) <運搬>47. 荷物を背負うために用いる木でできた梯子状の道具のことを何と言いますか。(オイコ・カルイコ・ショイコ)、48. 主に芋などの収穫物を入れ、前後に担いで運ぶ藁製の道具のことを何と言いますか。(フッゴ)、49. 日用水や飲料水などを入れて運ぶ桶を何と言いますか。(タッゴ)、50. フンゴや水を入れた桶を前後に担いで運ぶための棒を何と言いますか。(オーク・オク)、51. 両端が尖った棒で、藁束などを前後に突き刺して肩に担う棒のことを何と言いますか。(サス) <藁>52. フンゴや炭俵を作る際に用いる道具を何と言いますか。(コマセ) 53. 蓑を作る際に経糸を巻き付ける道具を何と言いますか。(オモシ・トッチノコ・トンコ)、54. 刈った稲を束ねる時などに用いる藁で簡単に編んだ縄のことを何と言いますか。(トッガイ・ネソ) <妖怪>55. 水中にいて、人間を引きずり込む子ども位の大きさの妖怪を何と言いますか。(エンコー・エンコ) (シバテンとはどんな妖怪か聞いてみる)、56. ほかに見たこと・聞いたことのある妖怪はいませんか。<社会>57. 田植えや稲刈り、屋根葺きなどの時に、互いの仕事を交換して手伝い合うことを何と、言いますか。(イー (イーモッドシについても聞いてみる)・テッガエ)、58. お盆の時、家の庭先や道に、長い竹を立てて松明を燃やすものを何と言いますか。(タカボテ・タカダイ)

2. 三原村民俗・言語地図および解説

次頁から、「三原村民俗・言語地図」(作製した18項目39点中7項目14点)を掲げる⁹⁾。なお、図中の ― および ― の下における左の記号は優勢形、右の記号は併用形を表す。

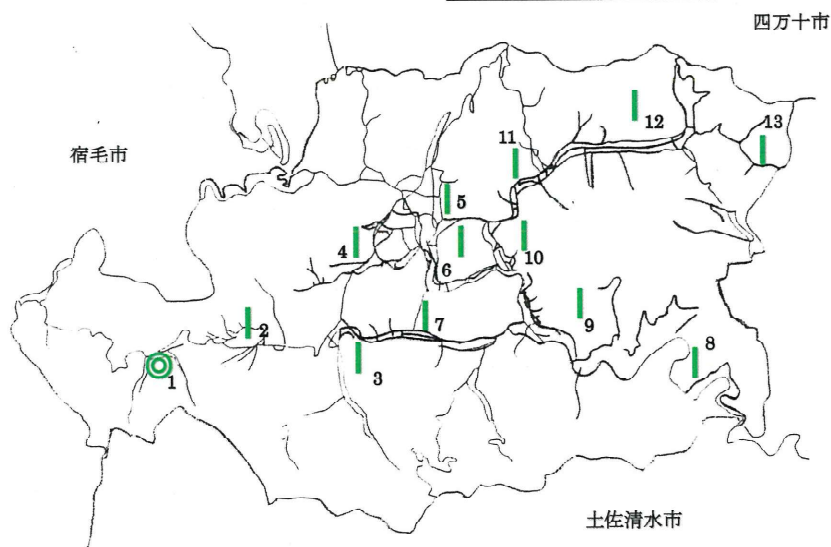
三原村民俗・言語地図

<男性>

項目 01

ゾーリ

藁(時に竹皮)で編んだ日常履いていた履物を何と言いますか。



— 凡例 —

| ゾーリ

◎ ジョーリ

< 地点 >

1. 下切 2. 亀ノ川 3. 広野 4. 柚ノ木 5. 宮ノ川 6. 来栖野 7. 皆尾
8. 芳井 9. 下長谷 10. 上下長谷 11. 上長谷 12. 狼内 13. 成山

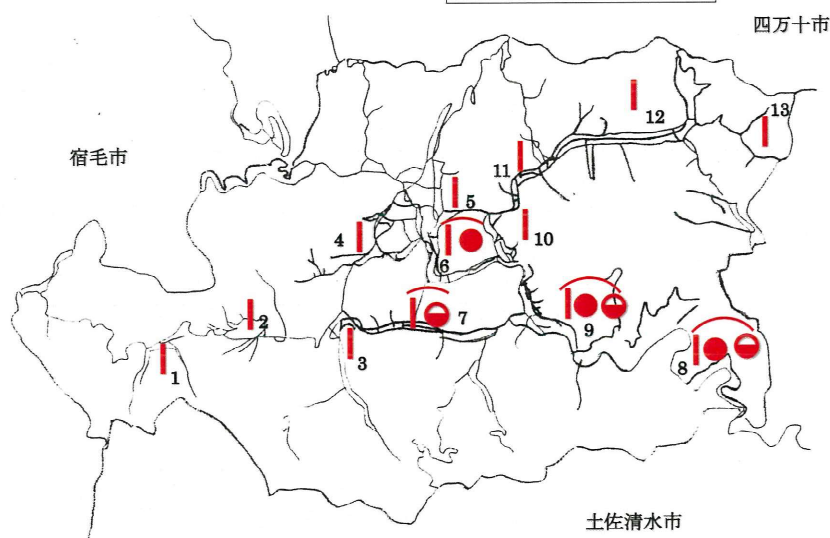
三原村民俗・言語地図

<女性>

項目 01

ゾーリ

藁(時に竹皮)で編んだ日常履いていた履物を何と言いますか。



— 凡例 —

| ゾーリ

● ワラゾーリ

◐ カワゾーリ

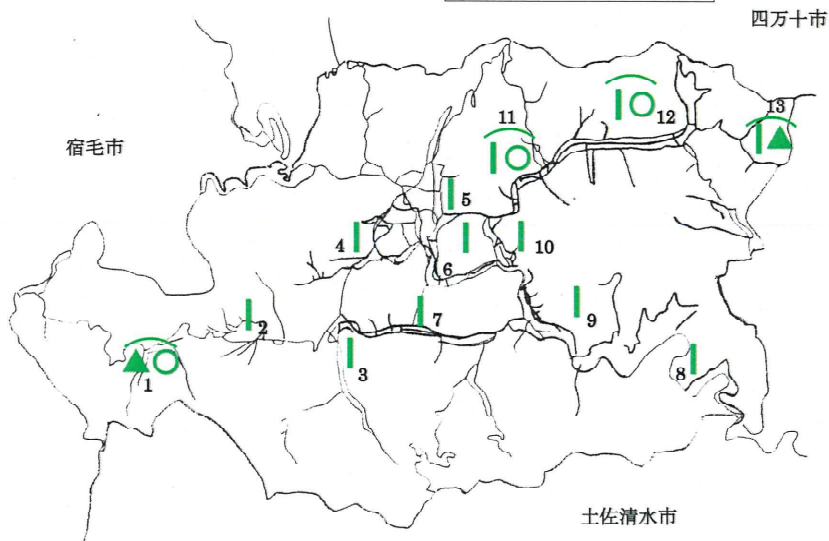
< 地点 >

1. 下切 2. 亀ノ川 3. 広野 4. 柚ノ木 5. 宮ノ川 6. 来栖野 7. 皆尾
8. 芳井 9. 下長谷 10. 上下長谷 11. 上長谷 12. 狼内 13. 成山

三原村民俗・言語地図

<男性>

項目 16
イロリ
屋内の床や土間を四角に切って、そこで火を焚き、煮炊きや暖房に使用する場所のことを何と言いますか。



— 凡例 —

- | イロリ
- イルリ
- ▲ ユルリ

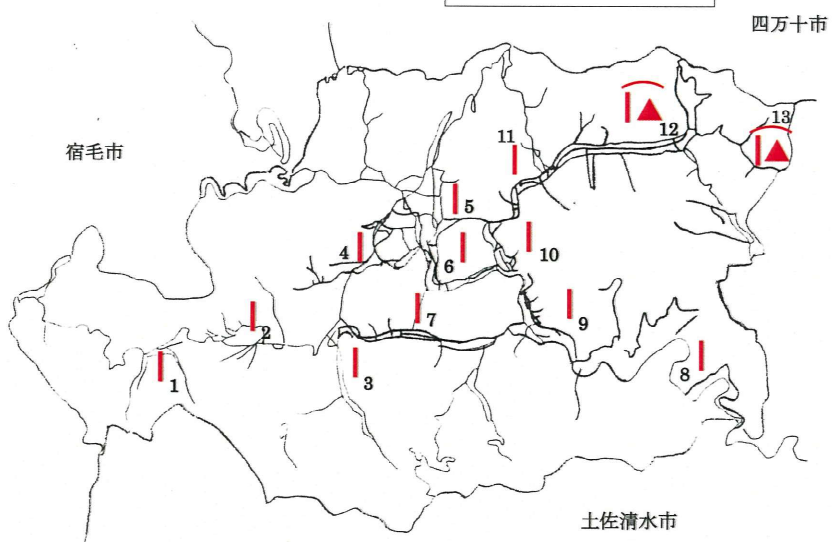
< 地点 >

1. 下切 2. 亀ノ川 3. 広野 4. 柚ノ木 5. 宮ノ川 6. 来栖野 7. 皆尾
8. 芳井 9. 下長谷 10. 上下長谷 11. 上長谷 12. 狼内 13. 成山

三原村民俗・言語地図

<女性>

項目 16
イロリ
屋内の床や土間を四角に切って、そこで火を焚き、煮炊きや暖房に使用する場所のことを何と言いますか。



— 凡例 —

- | イロリ
- ▲ ユルリ

< 地点 >

1. 下切 2. 亀ノ川 3. 広野 4. 柚ノ木 5. 宮ノ川 6. 来栖野 7. 皆尾
8. 芳井 9. 下長谷 10. 上下長谷 11. 上長谷 12. 狼内 13. 成山

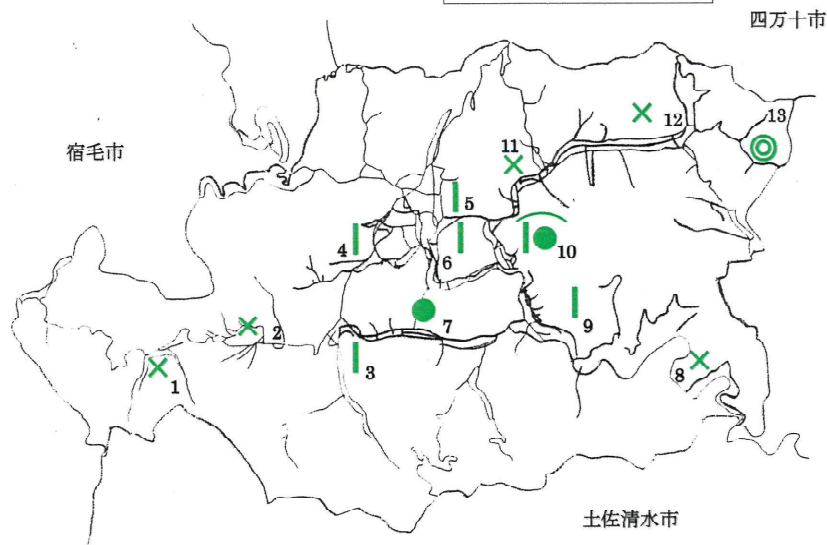
三原村民俗・言語地図

< 男性 >

項目 36

フミウス

家の土間などに置いてある臼で、人が杵を踏んで米や麦を精白するものを何と言いますか。



— 凡例 —

| フミウス

● コメトウキ

◎ コメフミ

× わからない(非使用・非理解)

< 地点 >

1. 下切 2. 亀ノ川 3. 広野 4. 柚ノ木 5. 宮ノ川 6. 来栖野 7. 皆尾
8. 芳井 9. 下長谷 10. 上下長谷 11. 上長谷 12. 狼内 13. 成山

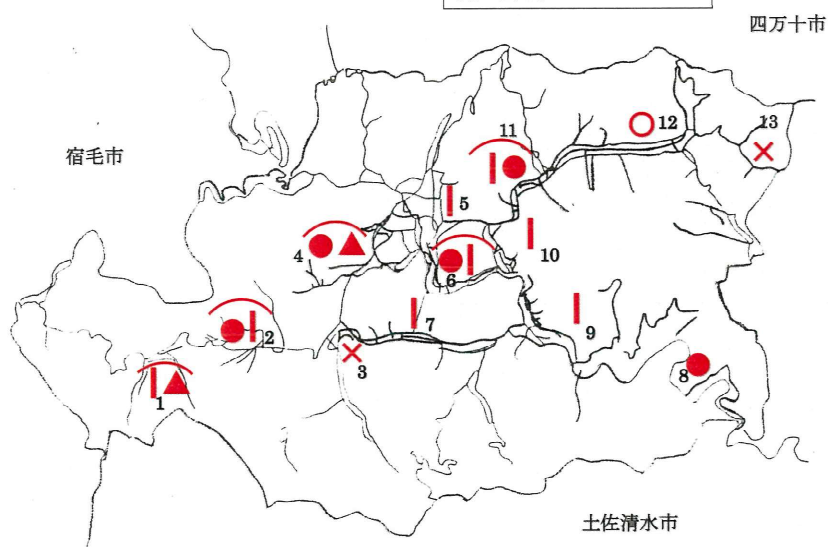
三原村民俗・言語地図

< 女性 >

項目 36

フミウス

家の土間などに置いてある臼で、人が杵を踏んで米や麦を精白するものを何と言いますか。



— 凡例 —

| フミウス

● コメトウキ

◎ コメフミ

▲ ダインガラ

× わからない(非使用・非理解)

< 地点 >

1. 下切 2. 亀ノ川 3. 広野 4. 柚ノ木 5. 宮ノ川 6. 来栖野 7. 皆尾
8. 芳井 9. 下長谷 10. 上下長谷 11. 上長谷 12. 狼内 13. 成山

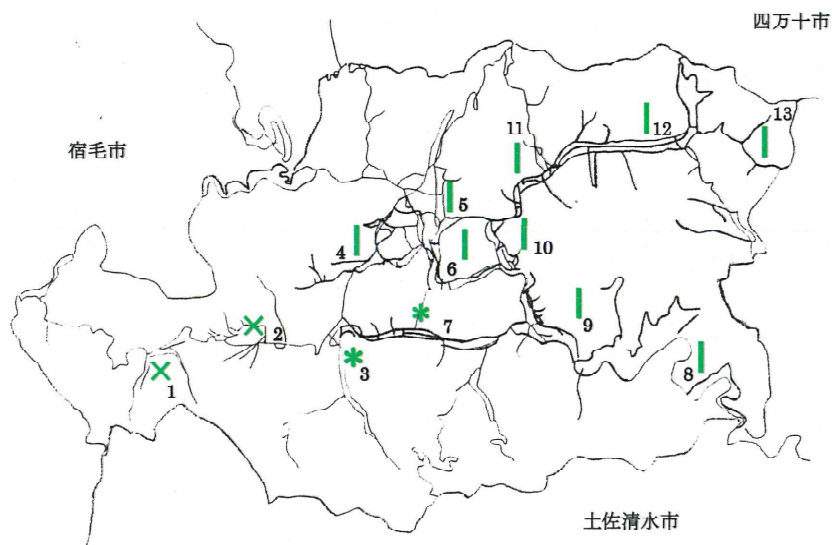
三原村民俗・言語地図

<男性>

項目 41

ハツリ

倒した材木を角材にするため、側面を削る斧の一種を何と言いますか。



<地点>

1. 下切 2. 亀ノ川 3. 広野 4. 袖ノ木 5. 宮ノ川 6. 来栖野 7. 皆尾
8. 芳井 9. 下長谷 10. 上下長谷 11. 上長谷 12. 狼内 13. 成山

— 凡例 —

- | ハトゥリ
* ソマ
× わからない(非使用・非理解)

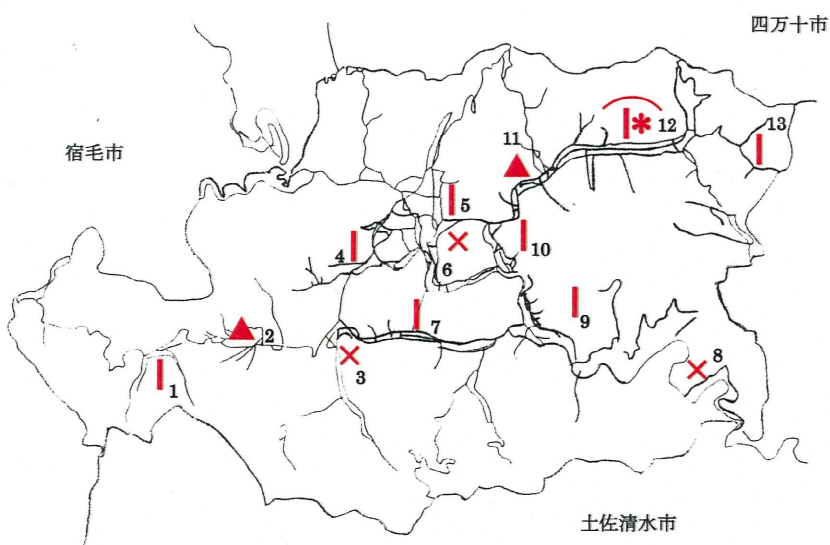
三原村民俗・言語地図

<女性>

項目 41

ハツリ

倒した材木を角材にするため、側面を削る斧の一種を何と言いますか。



<地点>

1. 下切 2. 亀ノ川 3. 広野 4. 袖ノ木 5. 宮ノ川 6. 来栖野 7. 皆尾
8. 芳井 9. 下長谷 10. 上下長谷 11. 上長谷 12. 狼内 13. 成山

— 凡例 —

- | ハトゥリ
* ソマ
▲ マエジヨーナ
× わからない(非使用・非理解)

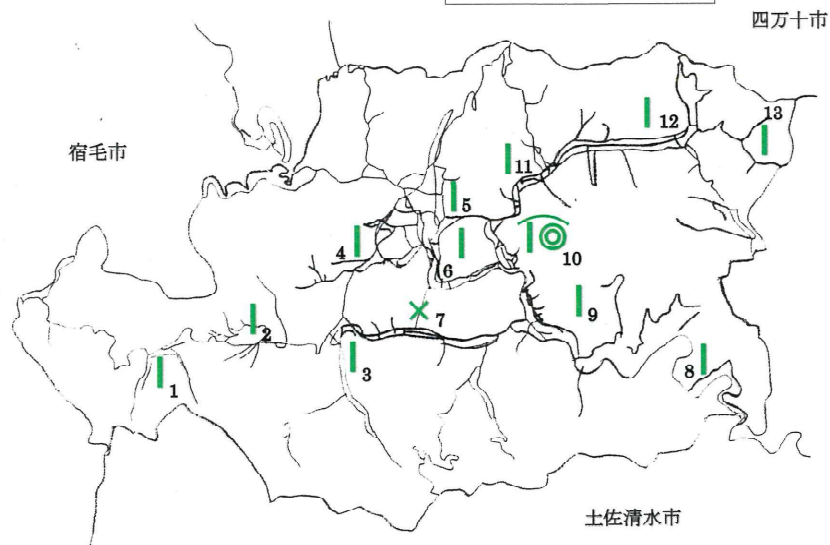
三原村民俗・言語地図

< 男性 >

項目 46

スサキリ

家畜の餌などのために藁や干し草などを切るための道具のことを何と言いますか。



— 凡例 —

| スサキリ

◎ ワラキリ

× わからない

< 地点 >

1. 下切 2. 亀ノ川 3. 広野 4. 柚ノ木 5. 宮ノ川 6. 来栖野 7. 皆尾
8. 芳井 9. 下長谷 10. 上下長谷 11. 上長谷 12. 狼内 13. 成山

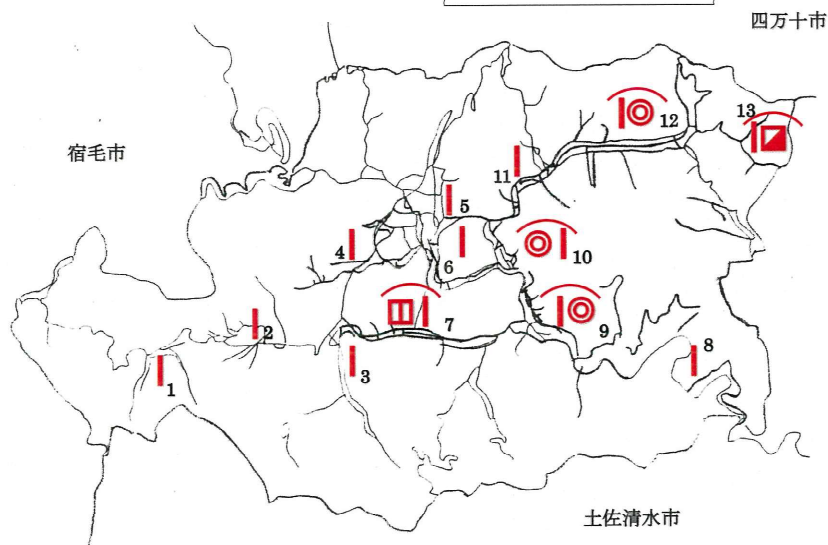
三原村民俗・言語地図

< 女性 >

項目 46

スサキリ

家畜の餌などのために藁や干し草などを切るための道具のことを何と言いますか。



— 凡例 —

| スサキリ

◎ ワラキリ

▧ ハメキリ

▨ ハメキリ

< 地点 >

1. 下切 2. 亀ノ川 3. 広野 4. 柚ノ木 5. 宮ノ川 6. 来栖野 7. 皆尾
8. 芳井 9. 下長谷 10. 上下長谷 11. 上長谷 12. 狼内 13. 成山

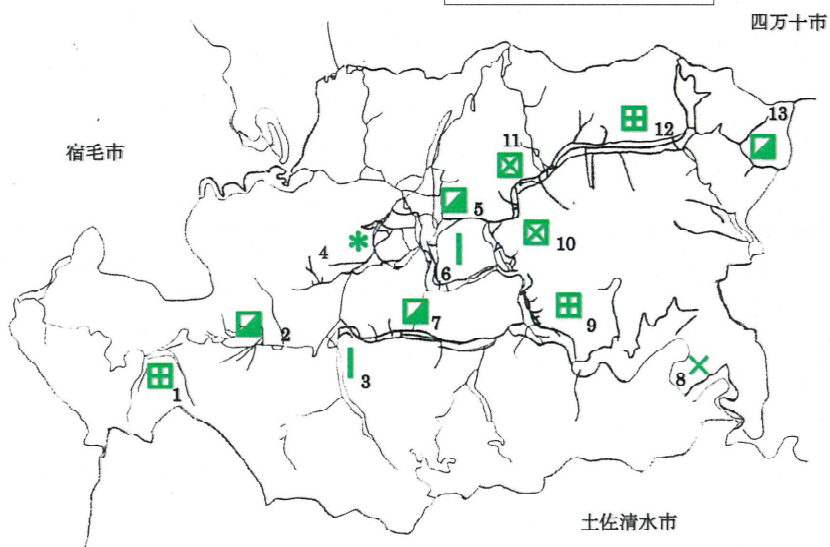
三原村民俗・言語地図

<男性>

項目 47

オイコ

荷物を背負うために用いる木でできた
梯子状の道具のことを何と言います
か。



— 凡例 —

- | オイコ
- * カルイ
- 田 ショイコ
- セオイ
- セオイコ
- × わからない(非使用・非理解)

<地点>

1. 下切 2. 亀ノ川 3. 広野 4. 柚ノ木 5. 宮ノ川 6. 来栖野 7. 皆尾
8. 芳井 9. 下長谷 10. 上下長谷 11. 上長谷 12. 狼内 13. 成山

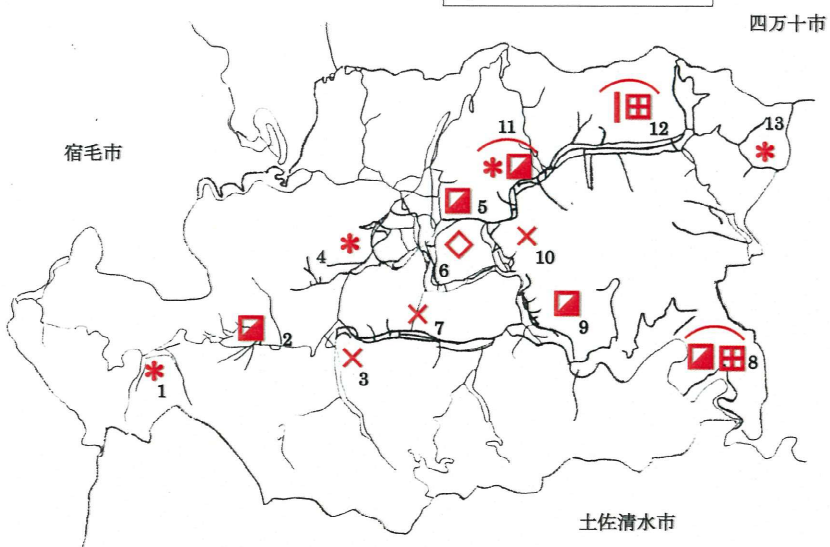
三原村民俗・言語地図

<女性>

項目 47

オイコ

荷物を背負うために用いる木でできた
梯子状の道具のことを何と言いま
すか。



— 凡例 —

- | オイコ
- * カルイ
- 田 ショイコ
- セオイ
- ◇ セオイカッゴ
- × わからない(非使用・非理解)

<地点>

1. 下切 2. 亀ノ川 3. 広野 4. 柚ノ木 5. 宮ノ川 6. 来栖野 7. 皆尾
8. 芳井 9. 下長谷 10. 上下長谷 11. 上長谷 12. 狼内 13. 成山

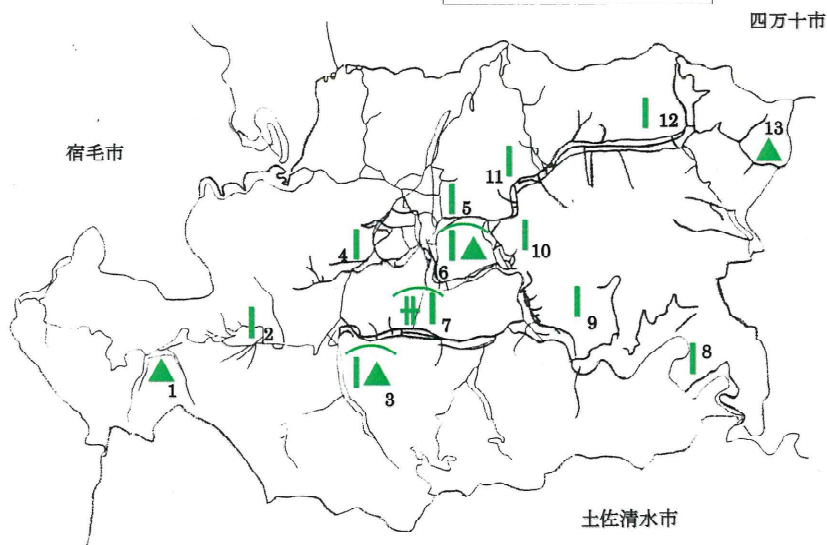
三原村民俗・言語地図

<男性>

項目 57

イー

田植えや稲刈り、屋根葺きなどの時に、
互いの仕事を交換して手伝い合うこと
を何と言いますか。



< 地点 >

1. 下切 2. 亀ノ川 3. 広野 4. 柚ノ木 5. 宮ノ川 6. 来栖野 7. 皆尾
8. 芳井 9. 下長谷 10. 上下長谷 11. 上長谷 12. 狼内 13. 成山

— 凡例 —

- イー
コイ
テッガエ

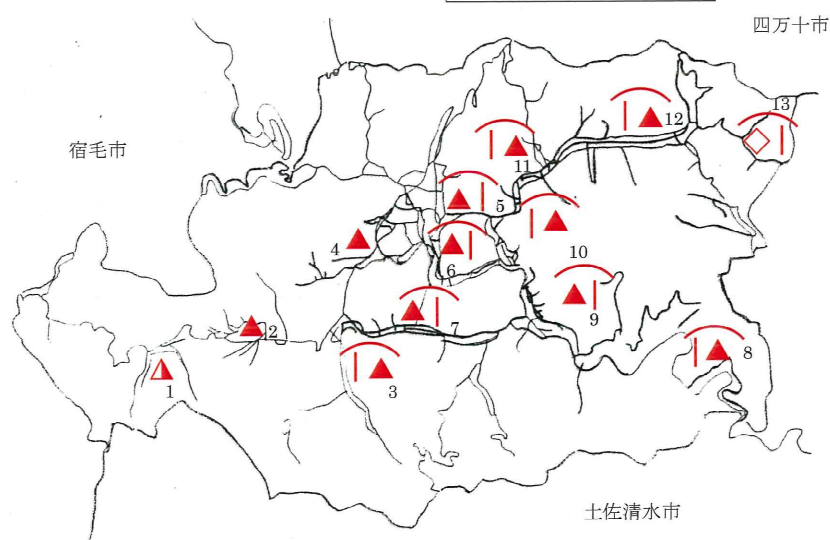
三原村民俗・言語地図

<女性>

項目 57

イー

田植えや稲刈り、屋根葺きなどの時に、
互いの仕事を交換して手伝い合うこと
を何と言いますか。



< 地点 >

1. 下切 2. 亀ノ川 3. 広野 4. 柚ノ木 5. 宮ノ川 6. 来栖野 7. 皆尾
8. 芳井 9. 下長谷 10. 上下長谷 11. 上長谷 12. 狼内 13. 成山

— 凡例 —

- イー
テッガエ
テッガイ
テマンガエ

項目01 ≪ゾーリ≫

男性は、亀ノ川・広野・柚ノ木・宮ノ川・来栖野・皆尾・芳井・下長谷・上下長谷・上長谷・狼内・成山地区で「ゾーリ」、下切地区で「ジョーリ」という回答が得られた。

この男性の地図で、下切地区のみで見られた「ジョーリ」に着目する。寺尾 (1975) の三原村の伝統的方言の一覧の中には「ジョウリ」という項目が記されている。このことから、草履の古い方言呼称が、今も下切地区に残っていることが明らかになった。

女性は、下切・亀ノ川・広野・柚ノ木・宮ノ川・上下長谷・上長谷・狼内・成山地区で「ゾーリ」、来栖野地区で「ゾーリ／ワラゾーリ」、皆尾地区で「ゾーリ／カワゾーリ」、芳井・下長谷地区で「ゾーリ／ワラゾーリ／カワゾーリ」という回答が得られた。女性では、草履の素材に関連した呼称がいくつかの地区で確認できた。全ての地区で同じ質問をしたにもかかわらず、このような素材に関連した呼称が得られたのは、地域差であるといえる。

項目16 ≪イロリ≫

男性は、亀ノ川・広野・柚ノ木・宮ノ川・来栖野・皆尾・芳井・下長谷・上下長谷地区で「イロリ」、下切地区で「ユルリ／イルリ」、上長谷・狼内地区で「イロリ／イルリ」、成山地区で「イロリ／ユルリ」という回答が得られた。

女性は、下切・亀ノ川・広野・柚ノ木・宮ノ川・来栖野・皆尾・芳井・下長谷・上下長谷・上長谷地区で「イロリ」、狼内・成山地区で「イロリ／ユルリ」という回答が得られた。全ての地区で「イロリ」という回答が得られたことから、村全体に「イロリ」という呼称が分布していることが考えられる。

男女の地図で確認できた「イルリ」「ユルリ」にそれぞれ着目する。「イルリ」は、寺尾 (1975) の三原言葉の転訛の例の中に、オ列音のウ列音訛という項目があり、そこで例として示されている⁴⁾。そして「ユルリ」は「イロリ」よりも古い呼称であることから、新古関係を表すと、ユルリ・イルリ・イロリの順となる。

また、「イルリ」や「ユルリ」は、男女共に村の端の方に分布していることから、村の端の方に古い方言呼称が残っているのだと考えられる。

項目36 ≪フミウス≫

男性は、広野・柚ノ木・宮ノ川・来栖野・下長谷地区で「フミウス」、皆尾地区で「コメトウキ」、成山地区で「コメフミ」、上下長谷地区で「フミウス／コメトウキ」という回答が得られた。また、下切・亀ノ川・芳井・上長谷・狼内地区に関しては、この道具の呼称を、「聞いたことも使用したこともない」という回答が得られた。

女性は、宮ノ川・下長谷・皆尾・上下長谷地区で「フミウス」、芳井地区で「コメトウキ」、狼内地区で「コメフミキ」、下切地区で「フミウス／ッダイガラ」、亀ノ川・来栖野地区で「コメトウキ／フミウス」、柚ノ木地区で「コメトウキ／ッダイガラ」、上長谷地区で「フミウス／コメトウキ」という回答が得られた。また、広野・成山地区に関しては、この道具の呼称を、「聞いたことも使用したこ

ともない」という回答が得られた。

地図を見ると、男性は「フミウス」「コメトゥッキ」「コメフミ」の3種類、女性は「フミウス」「コメトゥッキ」「コメフミキ」「ダイガラ」の4種類の呼称がそれぞれ確認できる。

次に、呼称を順に見ていく。三原村の伝統的方言の中に、玄米を搗いて白米にすることを「コメフミ」と記されている。このことから、そのための道具として「コメフミ」や「コメフミキ」という呼称が得られたのではないかとと思われる。また、米を搗く道具として「コメトゥッキ」という呼称が得られたことも考えられ、先程の呼称も含めこれらの呼称は、三原村に古くから存在していた可能性があると考えられる。その他の呼称については、「フミウス」は臼を杵で踏むことというように解釈ができる。

項目41 <<ハツリ>>

男性は、柚ノ木・宮ノ川・来栖野・下長谷・上下長谷・上長谷・狼内・成山地区で「ハトゥリ」、広野・皆尾地区で「ソマ」という回答が得られた。また、下切・亀ノ川・芳井地区に関しては、この道具の呼称を、「聞いたことも使用したこともない」という回答が得られた。

女性は、下切・柚ノ木・宮ノ川・皆尾・下長谷・上長谷・成山地区で「ハトゥリ」、亀ノ川・上長谷地区で「マエヂョーナ」、狼内地区で「ハトゥリ／ソマ」という回答が得られた。また、広野・来栖野・芳井地区に関しては、この道具の呼称を、「聞いたことも使用したこともない」という回答が得られた。

男女の地図で確認できた「ハトゥリ」に着目する。現在では多くの人が「ハツリ」と発音する可能性が高いことに対して、三原村では、昔からの発音「トゥ」が今でも残っていることが確認できた。このことから、呼称の新古関係は、ハトゥリ・ハツリの順となる。

また、「ソマ」は、木こりの道具のことを「ソマ道具」と呼ぶことから、この項目で呼称として得られた可能性もあると考えられる。

項目46 <<スサキリ>>

男性は、下切・亀ノ川・広野・柚ノ木・宮ノ川・来栖野・芳井・下長谷・上長谷・狼内・成山地区で「スサキリ」、上下長谷地区で「スサキリ／ワラキリ」という回答が得られた。また、皆尾地区に関しては、この道具の呼称を、「聞いたことも使用したこともない」という回答が得られた。

女性は、下切・亀ノ川・広野・柚ノ木・宮ノ川・来栖野・芳井・上長谷地区で「スサキリ」、下長谷・狼内地区で「スサキリ／ワラキリ」、上下長谷地区で「ワラキリ／スサキリ」、成山地区で「スサキリ／ハミキリ」、皆尾地区で「ハメキリ／スサキリ」という回答が得られた。全ての地区で「スサキリ」という回答が得られたことから、村全体に「スサキリ」という呼称が分布していることが考えられる。

地図を見ると、男性は、男女共通である「スサキリ」「ワラキリ」の2種類のみ、女性は「ハミキリ」「ハメキリ」を合わせて4種類の呼称が確認できる。このことから、男女で得られた呼称の数に差があることが理解できる。

まず、「ハミキリ」と「ハメキリ」について見ていく。「ハミ」は、三原村の伝統的方言の中に、牛

馬の飼葉のことと記されている。また、三原言葉の転訛の例の中にイ列音のエ列音訛があり、例として「ヨイ→エエ」や「タニ→タネ」が挙げられる。「ハミキリ」と「ハメキリ」は、この項目に当てはまると考え、ハミキリ・ハメキリという順の新古関係が成り立つといえる。

そして、今回得られた4種類の呼称全てに共通することは、スサ・ワラ・ハミ・ハメが、牛馬の飼葉を示していることである。この道具を扱う人が、牛馬の飼葉として何を利用したかということも、この道具や呼称に関係している可能性があるかもしれない。

項目47 <<オイコ>>

男性は、広野・来栖野地区で「オイコ」、柚ノ木地区で「カルイ」、下切・下長谷・狼内地区で「ショイコ」、亀ノ川・宮ノ川・皆尾・成山地区で「セオイ」、上下長谷・上長谷地区で「セオイコ」という回答が得られた。また、芳井地区に関しては、この道具の呼称を、「聞いたことも使用したこともない」という回答が得られた。

女性は、下切・柚ノ木・成山地区で「カルイ」、亀ノ川・宮ノ川・下長谷地区で「セオイ」、来栖野地区で「セオイカンゴ」、芳井地区で「セオイ／ショイコ」、上長谷地区で「カルイ／セオイ」、狼内地区で「オイコ／ショイコ」という回答が得られた。また、広野・皆尾・上下長谷地区に関しては、この道具の呼称を、「聞いたことも使用したこともない」という回答が得られた。

この項目は、男女共に呼称のバリエーションが多いことが、地図から確認できる。背負子という物自体、各地で様々な呼称で呼ばれていることから、三原村においてもこのような結果が得られたと考える。また、三原村の伝統的方言の中に、肩や背中にのせる動作のことを「カルウ」と記されている。このことから、この項目の中の「カルイ」という呼称が、三原村に古くから存在した可能性もあると思われる。

このように、他の項目と比較して呼称にバリエーションが見られたが、これらの呼称がなぜ使用されているのかということについては、隣接した3市の調査が必要となるため、現時点では明らかになっていない。

項目57 <<イー>>

男性は、亀ノ川・柚ノ木・宮ノ川・芳井・下長谷・上下長谷・上長谷・狼内地区で「イー」、下切・成山地区で「テッガエ」、広野・来栖野地区で「イー／テッガエ」、皆尾地区で「ユイ／イー」という回答が得られた。また、地図上には記していないが、してもらったら相手に返すことについて、広野・柚ノ木・下長谷・上長谷・成山地区で「イーモッドシ」、亀ノ川地区で「イモンドシ」、狼内地区で「テッガエ」という回答も得られた。

女性は、亀ノ川・柚ノ木地区で「テッガエ」、下切地区で「テッガイ」、広野・芳井・上下長谷・上長谷・狼内地区で「イー／テッガエ」、宮ノ川・来栖野・皆尾・下長谷地区で「テッガエ／イー」、成山地区で「テマッガエ／イー」という回答が得られた。また、地図上には記していないが、してもらったら相手に返すことについて、上下長谷・狼内・成山地区で「イーモッドシ」、芳井・下長谷・上長谷地区で「イーモッドシ」、下長谷地区で「イモンドシ」、下切地区で「テッガエモッドシ」という回答も得ら

れた。

男女共に複数の呼称が確認できた。男性では、「イー」「ユイ」という2種類の呼称が見られた。「ユイ」は、三原村の伝統的方言の中に、「イイ」と記されている。そして、三原言葉の転訛の例の中に、ユ音のイ音訛という項目があり、例として「ユデル→イデル」や「アユ→アイ」などが挙げられる。これらを踏まえて考えると、ユイ・イーという順の新古関係が成り立つことが考えられる。女性では、「テッガエ」「テッガイ」「テマッガエ」というバリエーションが見られた。「イー」と「テッガエ」とでは、「テッガエ」の方が新しい呼称であるという情報を調査の際にいくつかの地区で耳にした。

3. おわりに

本稿では、三原村の民具に関する方言呼称がどのように使われ分布しているのかを明らかにすることに重点を置いて考察してきた。

本調査を通して、三原村で使用される方言呼称は明らかになったが、その方言呼称がどこから伝わって三原村に定着したかについては、未確認である。この点を明らかにするには、三原村と隣接している四万十市・宿毛市・土佐清水市の3市で、それぞれ調査を行わなければならない。この3市の調査を行い、その結果を三原村で得られた調査結果に反映させることによって、今回の調査結果がさらに良いものとなり、三原村にも還元できると考えられる。

なお、本稿を成すに当たり、三原村教育委員会の皆様、三原村文化財保護委員の皆様、お忙しい中、調査にご協力して下さった話者の皆様、本当にありがとうございました。

また、from ZEROによる「三原村民俗・言語調査プロジェクト」の活動の成果が評価され、本学の「平成25年度 学長賞」を受賞することになりました。これも、関係者の皆様のご協力のおかげです。ここに記して、感謝申し上げます。

【注】

- (1) 調査内容は、高知新聞2010年11月30日付朝刊の地域面に掲載された。
- (2) 調査内容は、2013年9月26日（木）のRKC高知放送の夕方の番組「こうちeye」で紹介された。唐津と吉廣がインタビューに答えた。10月30日（水）には、RKCラジオの「みんなのラジオ」に、メンバー代表の唐津が出演し、三原村民俗・言語調査の内容を説明した。
- (3) 芳井地区の男性については、85歳前後のインフォーマントが不在のため、62歳の方にご協力いただいた。このため、他の地区との年層差が見られた。
- (4) 調査結果内で用いられる「三原村の伝統的方言」「三原言葉の転訛の例」については、寺尾（1975）『方言と風土―三原ことばにかかわる話―』参照。

【参考文献】

石川栄吉・梅棹忠夫・大林太良・蒲生正男・佐々木高明・祖父江孝男編（1994）『[縮刷版] 文化人類学事典』弘文堂

- 岩井宏實監修／工藤員功編（2008）『[絵引] 民具の事典』河出書房新社
- 小川直之（1994）「民具の地域研究－地域民具論の方法」『歴史と民俗11（神奈川大学日本常民文化研究所論集11）』平凡社
- 真田信治監修／岸江信介・中井精一・鳥谷善史編著（2009）『大阪のことば地図』和泉書院
- 寺尾茂（1975）『方言と風土－三原ことばにかかわる話－』高知地理同好会
- 徳川宗賢（1993）『方言地理学の展開』ひつじ書房
- 日本民具学会編（1997）『日本民具辞典』ぎょうせい
- 橋尾直和・坂本正夫・井出幸男・梅野光興・田辺寿男・中村淳子（2000）「吾川郡池川町椿山の生活語における民具関係語彙」『中山間地域研究年報 第2号』高知女子大学中山間地域総合研究プロジェクト
- 原田英祐（2012）『東洋町と周辺地域の言葉－東洋町資料集・第3集－』（有）大島
- 牧野久実（2008）「人、暮らし、そして民具－琵琶湖の伝統的木造船丸子船を中心に－」鎌倉女子大学学術研究所報 第8号』鎌倉女子大学
- 馬瀬良雄（1992）『言語地理学研究』桜楓社
- 宮本常一（1979）『民具学の提唱』未来社

【参考URL】

三原村役場「高知県三原村ホームページ」<http://www.vill.mihara.kochi.jp/>（2014年1月16日）

（はしお なおかず・本学教授、なかひら ありさ、はくま ゆかこ・本学部4回生、からつ ゆみ、はやかわ れいら、よしひろ まき・本学部3回生、しもむら りょうた・本学部2回生）